

# われもこう

題字 山西 茂子さん



## 手話と出会って

手話通訳士 松村晶子

手話の勉強を始めたのは、長男が小学校に入った年でした。きっかけは、長男が学校から持ち帰った一枚のお知らせ。PTAの手話同好会(2024年のわれもこう3月号下川涼子さんの記事『聴覚障がい者の暮らし』で詳しく紹介されています)の会員募集のチラシでした。結婚で夫以外誰も知り合いのいない土地に来て、幼い子ども3人を育てる中、何とか外の世界に繋がりたいと思っていた頃。「手話」のことは何も知らなかったけど、「子連れOK」の言葉に惹かれて入会しました。

手話同好会の活動は月2回だけでしたが、知らないことを学ぶことが嬉しく、新しい自分になった気分でした。もっと勉強したいと、次の年、高槻市主催の手話講習会に通うことにしました。しかし末っ子の次男は、まだ幼稚園にもいっておらず、昼の講習会には参加できません。よって、夜の部に。なんで、あれほどまでに懸命になったのかは、今でも不思議なのですが、「とにかく1週間に2時間だけ、私に時間をください」と夫に頼みこ

み、水曜日の夜、高槻市立障がい者福祉センター、通称ゆう・あいセンターに通ったのです。半年後、修了証書をもった時は本当に嬉しかった。もっと手話の勉強を続けたいと、ゆう・あいセンターで行われている「高槻手話サークルうの花」に入りました。

ところが、サークルで出会うろう者の手話が全然わからない。こちらの言いたいことも全然伝わらない。単語の数を増やせば良いかと、本を買って覚えたけどなかなか通じない。それでも、この「週に2時間」は大事な自分のための時間。4年間、夜にゆう・あいセンターに通いました。

やがて子どもたちは、みな小・中学生となり、私は手話サークルに所属しながら、手話通訳として、大阪市や高槻市で活動するようになりました。手話通訳というと、テレビのワイド(画面の隅の小窓)や講演会などで目にすることが多いかと思いますが、私の現場は高齢者の医療など、主に暮らしの場面です。病院での長い待ち時間に、裁縫が得意なろう者から、きんちゃく袋の効率的な作り方を教



えてもらったことがありました。こういう時の「手話」って生き生きとして、とってわかりやすい。袋状に縫った布をひっくり返して角をきっちり出すところなんて、ほんとにお見事！また工場に勤めるろう者の手話では、次々と製品が作り出されるのが見えてきて、まるで工場見学に行ったよう。そんな素敵な手話を見るにつけ、自分が表す手話は、単語は間違っていないはずだけど、何か違うと感じるようになりました。

日本の手話は、明治初期にろう教育によってろう者の集団が生まれたことから始まり、その中で発展してきました。日本語とは全く違った体系をもつ言語です。しかし、歴史の中では、手話は日本語より劣るとされ、ろう学校で禁止された時代もありました。現在は「手話は言語」と法律で認められ、研究も進んでいます。ろう者が生み育てた手話を大事にする考え方が広まり、手話講習会の教材や教え方も変わってきました。しかし、私が最初に「手話」だと思い込んでいたのは、聞こえる人にとって理解しやすい形…手話の単語を日本語の語順で並べる「日本語対応手話」だったのです。

ろう者の手話は、日本語とは語順が違います。それだけでなく、手の形や動きに加えて、手を動かす位置や、顔の表情、体や顔の向きなど日本語にはない要素がたくさんあります。例えば、同じ手の形で同じ動きをしても、眉を上げたり、首を振ることで、疑問文になったり否定文になったりするのです。ですから、私が手話の単語を日本語の順番に並べて表しても、ろう者からすれば「手が動いてい

るが意味がわからない」ものになっていたのです。

手話を始めて 10 年目に手話通訳士の資格を取り、行政で手話通訳を担うようになってからは、「自分の手話が、本当に伝わっているのか？」「ろう者の訴えを正しく理解できているのか？」と悩みながらの毎日でした。それでも、自分自身が子育てや介護などを経験することで、「言語としての手話」がわかるというより、生活体験からろう者の話に共感できるようになりました。とはいえ、やっぱり「日本語対応手話」から抜け出せない自分も感じていました。

行政での手話通訳から離れて、今はまた新しい気持ちでもう一度、「言語としての手話」を学びなおそうと思っています。ろう者の暮らしから生まれた魅力的な手話をたくさん見たい。わかりたい。ありがたいことに、私が手話の勉強を始めた二十数年前に比べ、今は手話の研究も進み、体系的に整理された文法の本や動画がたやすく手に入る時代になりました。また、長く手話に関わったおかげで、サークルや通訳活動で魅力的な手話を話そうろう者や、一緒に学ぶ仲間にもたくさん出会えました。

この秋から、かつて自分が学んだ手話講習会で、ろう者とともに講師として関わることになりました。手話の奥深さに戸惑うこともありますが、生き生きと語られるその言葉…「手話」を、これからもたくさんの仲間と一緒に、学び続けていきたいと思っています。



くらし創造の家 開 **夏祭り**

【お店】焼きそば・焼き鳥・フランクフルト・  
焼きおにぎり 皆さんおなかいっぱい。  
【射的】水鉄砲で並んでいるくじを落とし、特賞は  
ハーゲンダッツのアイスクリーム！「あー私はずれ」  
「これ先にしたら損やで」と大盛り上がり。  
【人形すくい】「あかんわ、破れた」1等のＹさんは16  
個！「懐かしいなあ、子どもとようしたなあ」



あすなろ



フロアは紅白幕と手作りの提灯で飾られ、一瞬にしてお祭り会場へと大変身。フィナーレは「炭坑節」の盆踊り♪スタッフの太鼓のリズムに合わせて、ご利用者さんとスタッフも一緒になって踊り、手拍子や掛け声で会場全体が一体感に包まれました。



あすなろ地域交流センター



地域交流センターは、屋台会場に変身。新しく購入したかき氷器で、イチゴミルク、メロンのかき氷に皆さん大喜び。フルーツポンチ、フライドポテト、綿菓子、スイカなど、好きな物を楽しんでいただきました。

## 小規模多機能型居宅介護 あすなろ



みやこ保育園 夏祭り交流会 ♪

みやこ保育園の子どもたちをお招きし、初めての夏祭り交流会を開催しました。

浴衣や甚平姿で元気いっぱい屋台ゲームを楽しむ子どもたちに、ご利用者の皆さんも笑顔で声をかけていました。子ども達の楽しそうにはしゃぐ声が、あすなろ内に活気をもたらし、ご利用者の皆さんも大変喜ばれ、笑いあふれる温かな時間を一緒に過ごすことができました。今後もこうした交流を大切に育み、さらに広げていきたいと考えています。



事業所  
だより

## 地域交流センター あすなろ



地域交流センターは、様々な人々とのネットワークに支えられています。この度は「つながる7レモネード」の活動支援にネットワークしたいと思います。レモネードを購入することで、その全額が小児がんの支援・研究に寄付される活動です。初めて2ダースを購入したその日の午後には、その3分の2の16本を販売！

皆様のご協力をお願いいたします。

つながる7レモネード

FB: つながる7レモネード  
Instagram: tunagaru7lemonade  
Mail: tunagaru7lemonade@gmail.com  
X (旧 Twitter): つながる7レモネード

袋が知ってる  
小児がんの支援・研究に

代表メンバー しょうご・さき  
Support: なおみ・きよこ・よしと・ひろあき

## くらし創造の家 朋(とも) 小規模多機能型居宅介護

先日総勢 16 名で和食さとに外出に出かけました。メニューを前もって選ぶのですが「これにしようかな」と皆悩む悩む。「よし！決まった！」と言った 10 分後、「え！外出行くの！？」の流れを繰り返し、やっとメニューを決めることができました。

当日、レストランに着くと、料理を運んでくれるロボットを見てみんなびっくり。「えらいなあ、どうなっているんや」と盛り上がり

ります。一番人気メニューのさと御膳はご飯、小鉢、茶わん蒸し、に自分で 2 つおかずを選ぶことができます。すごいボリュームでしたが皆様完食。普段は小食の Y さんも鰻は完食！

いつもとは違う雰囲気の中、自分で選んだメニューを食べるのは特別美味しいですよ。そんな私も隠れてパフェを食べました。また行きたいです。



この夏、ヘルパーとして高槻ライフケア協会にお世話になり 3 年が経ちました。きっかけは子どものクラス担任が全盲の視覚障がい者の先生だった事です。先生は見たことのない点字ディスプレイを操って、スイスイと情報を引き出されていました。体調を崩した子どもの相談で頻繁にお世話になり、面談時には白杖を頼りに歩いて来られる先生に声掛けでしか案内できないことがもどかしくなりました。ちょうど目にとまった同行援護研修に申し込み、そのまま何も介護を知らず

## 訪問介護

に飛び込んだ高槻ライフケア協会は、移動支援、訪問介護、障害居宅と、老若男女さまざまな利用者さんとそのご家族に幅広く関わることができる事業所でした。どのケアからも教わることが多く、利用者さん達と会ってお話するのが楽しく、あっという間の 3 年間でした。こんなご縁を繋いでくださった先生に心から感謝しています。これからは様々な利用者さん達をサポートできるように、経験を重ねて、必要な知識を身につけていきたいと思っています。(H)

## 第1回 医療的ケアヘルパーステーションネットワーク会議

7月16日(木)13:30~15:00(オンライン会議)

平成24(2012)年4月から介護職員が一定の研修修了後、医療的ケアが実施できるようになりました。介護職が喀痰吸引や経管栄養を行うことで、重度の障がいがある人の生活の幅が広がり「どこで誰と生活するのか」について選択肢を広げているといえます。その後、13年が経過し在宅生活を希望される方も増えてきました。しかし、ヘルパーステーションのスタッフ不足や高齢化が社会問題になっている今、支援継続のために、地域のヘルパーステーションが横のつながりを持ち連携する必要があると考え、ネットワークを立ち上げました。情報を共有しながら、課題点の抽出や解決に向けての取り組み、アドバイザーからの助言を受けながら、在宅生活の支援を継続していきます。

### 医療的ケアヘルパーステーションネットワーク(敬称略・順不同)

- 囲む会ヘリオフレンド
  - ヘルパーステーション・よもぎ
  - ケアアシスト・らくらく
  - 柚の木ホームヘルパーステーション
  - ヘルパーステーション笑門
  - 南平台介護センター
  - まつゆき草
  - ふぁみりあ21
  - 高槻ライフケア協会
- アドバイザー：大阪医科薬科大学病院広域医療連携センター

## 第3号(特定の者対象) 喀痰吸引等研修基本研修開催

9月13日(土)・20日(土)

〈受講生の感想より〉

- 具体的な事例の説明がありイメージしやすかったです。自事業所でナースが行っている吸引や経管栄養が、何のためにどのようにされているのか具体的に理解できました。
- 講師の豊富な体験談がわかりやすかった。その行為をすることにより、どういうことにつながるのか理解できました。

- 人の体のことをヒシヒシと感じ、それと同時に責任感も感じます。この先、実地研修が待っていますが、心して業務にあたります。
- 私は高齢者の支援が主で、障がい者の生活ぶりを聞くことができ新鮮でした。教わった基本を忠実にやっていきます。





## 研修実施報告 紙おむつ情報共有会



7月17日(木)

講師：白十字株式会社 久保花音氏



紙おむつの進化についての情報を知ることができ、できるだけ紙おむつやパッドはシンプルに使うことが大切と学びました。介護職として、ついつい“漏れてはいけないから”とパッドを重ねがちですが、それが高温多湿状態になり、ご利用者の皮膚へ

の負担が増し、何より快適に過ごしていただいているのかという疑問につながりました。新製品のパッドも確認しつつ、ご利用者やご家族にご提案ができればいいと思いました。ありがとうございました。

## 心のケア～寄り添い方～ 9月25日(木)



講師：地域生活支援センターらいと 村田悠介氏



### 事例を通して学ぶ 支援者が大切にしたい姿勢

「わたしたちが“その人”をどのように理解し、どのように寄り添うのか」をテーマに研修を行いました。障がい者の事例を中心に、精神疾患による障害がある

というのは「目に見えない障害」、ヘルパーがそばにいること自体が、本人と社会をつなぐ「橋渡し」の役割を担い、見えにくい「心のゆらぎ」をみまもり、“緩衝材”“クッション”の役割を持ちながら、社会参加を支援している。「精神障害はその人の一部でしかない」のに、「精神症状」という言葉で、本人を説明しすぎる傾向に注意する。ネガティブ ケイパリティも意識しながら、コミュニケーションでは何を言うか(やり方)ではなくどのように言うか(在り方)に重点を置き、本人の「今ある真実」に耳を傾けること(姿勢)が大切だと学びました。



## サービス提供実績報告(2025年4月～8月)

### 《訪問介護》

利用者数	168 人
利用時間	2,072.0 時間
生活援助	395.0 時間
身体介護	704.0 時間
身体生活	973.0 時間

### 《介護予防訪問介護》

利用者数	144 人
利用回数	1,003 回

### 《ケアワーカー派遣サービス》

利用者数	57 人
利用時間	151.0 時間
家事援助	94.0 時間
身体介護	57.0 時間

### 《小規模多機能型居宅介護》登録人数平均

くらし創造の家 朋(とも)	18.8 人
あすなろ	16.0 人

### 《障害福祉・居宅介護》

利用者数	363 人
利用時間	5,058.3 時間
家事援助	2,107.8 時間
身体介護	2,540.5 時間
通院介助	410.0 時間

### 《重度訪問介護》

利用者数	10 人
利用時間	336.0 時間

### 《同行援護》

利用者数	133 人
利用時間	1,277.0 時間

### 《移動支援》

利用者数	280 人
利用時間	2,468.0 時間



### 編集後記

息子の幼馴染が、就職の内定が決まったとの話を聞きました。息子と同年の彼は、もう働くのか、とビックリしました(うちの息子は訳あってもう一年頑張ります)。私の記憶の中の彼は、まだ小さいままです。そしてまた、別の幼馴染は結婚するとか。みんなそれぞれ、年を重ねるにつれ成長しています。“いずれ、息子も巣立って行くんだろうな”と寂しい気持ちになりました。(K)

社会福祉法人高槻ライフケア協会

〒569-0806 高槻市明田町5番7号 TEL(072) 683-4945 <http://tlca.info/>